

放送の中の美化語を考える

～視聴者とアナウンサーへの
インタビュー調査から～

NHK放送文化研究所
主任研究員 滝島雅子

■街中にあふれる美化語

対象商品は
税込価格より
50円
引き!
が目印

お弁当 全品

○ごはん(単品)は
対象外となります。
○パスタ、焼きそば、
クラタン、お好み焼き、
ドリア、冷凍食品等は
対象外となります。

おしごと発見

希望のアルバイト・パー

牛井 定価表
大盛
お皿(ご飯付)五三〇
牛皿(ご飯付)七三〇
みそ汁 六〇
玉子 六〇

とってもお手軽♪



元気モリモリ
しんじい

お肉柔らか牛丼



お金持ち なる生き

自分へののご褒美

■「美化語」とは？

☞『明鏡国語辞典第二版』

(p.1897) 美化語は、「お菓子」「お天気」「(色とりどりの)お手紙」など、接頭語の「お」や「ご」をつけてものごとを美しく上品にいう語である。使うことによって相手(=話の聞き手や文章の読み手)や話題の中の人物を高めることはないが、相手に対して品よく改まった感じを与える。

☞「敬語の指針」(2007年文化審議会答申)

「ものごとを美化して述べるもの」

敬語の5分類の1つ

尊敬語／謙讓語Ⅰ／謙讓語Ⅱ／丁寧語／**美化語**

■美化語は、放送の中でどのように使われているのか？

👉 放送上の基準

『NHKことばのハンドブック第2版』 (p.28)

「お(接頭語)

物事を丁寧に言うために付ける「お」は、

できるだけ省いたほうが、すっきりとした表現になる。」



⇒ニュースでは、この基準に従い、抑制的に使われている

■ニュースの中の使い方

- 「低価格で**すし**を食べることができる回転寿司は、家族連れを中心に人気を集め、その市場規模は拡大を続けています。」
(2017年9月29日 ニュース)
- 「きのうの地震で、食堂にある食器棚から、およそ200点の**皿**やコップなどの食器が落ちて割れたということです。」
(2017年6月26日「ニュース7」)
- 「記録的な豪雨で断水が続いている地域で、**風呂**が開放され、大勢の住民たちが訪れて避難生活の疲れを癒やしました。」
(2017年7月8日 「ニュース7」)

■放送の中の美化語の変遷

◇戦前の美化語使用

(昭和10年『アナウンサー用語集』より)

- ・「体操の**お時間**であります」(『ラジオ体操』)
- ・「(お待たせ致しました)只今から**お料理**の時間でございます。」
- ・「只今から日用品の**お値段**でございます。」
- ・「只今から**おちいさい方のお時間**でございます。」(『子供の時間』)

(昭和10年 『用語委員会 審議報告』より)

「・・・敬語の接頭辞の「お」が(「おー」で1語をなす「お腹」「おはなし」等のほかは)いささか多過ぎる感がある。」

■放送の中の美化語の変遷

◇戦後の経緯

☞戦後の民主化に伴う敬語の変化

→文部省「これからの敬語」（昭和27年）

・「できるだけ平明・簡素にありたい」

・「「お」「ご」の整理」の項をもうけ、乱用を戒める内容

☞NHKも数回にわたって、「お」の放送の基準作りを検討
（昭和26年4月最終案）

・**原則**「物事をていねいに言うためにつける『お』は、放送では省きうるものはすべて省く」

・「「お」の付く語と「お」を付けずに済ましうる語」

→180語について基準を示す

例)○「お汁粉、おだんご、…」／×「かゆ、せんべい、とそ、…」

■放送の中の美化語の変遷

👉 **テレビ時代**に入り、敬語場面が多様化・複雑化
(昭和49年論文)

「(基準が)実情に合わない面が出てきている」

- ・場面の違いを重視した新しい時代の基準作りが必要
- ・一語一語決めるのは適切でない



👉 現在は…

「できるだけ「お」を省く」という原則をふまえ、
それぞれの放送現場で判断している…

■美化語に関する問い合わせや意見

- ニュースで「尻」「腹」などをどのように言ったらよいか
- 「金」は「お」を付けないとぞんざいに響く？(特に女性)
- 放送では「墓」とすべきか「お墓」とすべきか
- 放送では「雑煮」とすべきか「お雑煮」とすべきか
- 鍋の季節？お鍋の季節？



美化語の難しさ

- ・個人によって感覚が違う
- ・場面によって使用が変わる

～今回の調査報告～

■研究目的

- ニュース以外の番組（特に話し手の自由度が比較的高い番組）
での美化語の使用状況を調査
どのような文脈・場面でどのような美化語が使われているか
- 美化語を使う意識／受け止める意識を
アナウンサーと視聴者双方へのインタビューから探る
美化語はどのような意識から使われ／受け止められているのか

👉 放送の中の美化語の使い方の検討へ

■調査の概要

①情報番組『あさいち』の美化語使用状況調査

2017年4～5月放送の番組10本を視聴

⇒美化語を抽出

②担当アナウンサー7人への使用意識調査

＜2017年7月にインタビュー＞

③視聴者の受け止め意識調査(男女別・年代別の36人)

＜2017年8月にグループインタビュー＞

■調査対象について

👉 情報番組『あさいち』とは

- ・NHK総合テレビ(月～金)午前8時15分～9時54分放送
- ・主に主婦を対象とした生放送の生活情報番組

👉 『あさいち』を調査対象とした理由

- ・出演アナウンサーが男女でバランスよく担当していること
- ・情報番組の中でも、スタジオトーク・中継・VTRリポート・インタビューなどテレビ的な演出がそろっていること
- ・取り上げるテーマが生活実用情報から社会問題、エンターテインメントまで幅広いこと

①『あさいち』の美化語使用状況調査
～どのような場面で
どのような美化語が
使われているか～

■『あさいち』で使われた美化語

i)常に「お」「ご」が付いた形で使われる語	a)「お」「ご」が付かないと意味をなさない語	お抱え・おかず・お気に入り・お代(だい)・お通し・おなか・ごはん
	b)「お」「ご」がないと別の意味になるもの	お決まり・おしゃれ・お守り・おむすびなど
ii)「お」「ご」が付いた形も付かない形も、ほぼ同じ意味として使われる語	c)「お」「ご」が付いた形が通常語として定着していると思われるもの	お菓子・お茶など
	d)「お」「ご」を付けるかどうかについて場面差・個人差・男女差があると思われるもの	お味・お祝い・おうち・お買い物・お口・お米・お魚・お酒・お刺身・お砂糖・お白湯・お皿・お仕事・お食事・お芝居・おしょうゆ・お酢・お赤飯・お雑煮・おそば・お互い・お宝・おだし・お団子・お誕生日・お手紙・お手伝い・お豆腐・お得・お年寄り・お隣・お友達・お取り寄せ・おなべ・お肉・お庭・お願ひ・おねぎ・お墓・お肌・お花・お久しぶり・お昼・おふ・お風呂・おへそ・お勉強・お弁当・お水・お店・おみそ汁・お餅・お野菜・お社・お休み・お洋服・およそ・お料理・お礼など

■『あさイチ』の美化語の使用傾向

👉 1回の放送で平均**44.1語** **18.4種類**の美化語を使用

「**約2分に1語**」(美化語の平均語数／『あさイチ』放送時間1時間39分)

👉 「お」「ご」を付けるかどうかについて、場面差・個人差・男女差があると思われる美化語が多い

例) お墓／墓、お皿／皿、お食事／食事など

👉 生活に関する場面(特に飲食関連)で多用されている

例) お味、お米、お刺身、お弁当など

👉 スタジオや中継先での会話場面に多い

②アナウンサーへの使用意識調査 ～どんな意識で美化語を使っているのか～

②アナウンサーへの使用意識調査

👉『あさいち』での美化語の使用場面を選び、
「どのような気持ちで使ったか」についてインタビュー

【インタビュー調査に協力したアナウンサー】

性別	年代	出身地
男性	30代	神奈川県
男性	30代	神奈川県
男性	40代	大阪府
女性	30代	兵庫県
女性	30代	静岡県
女性	30代	福岡県
女性	40代	大阪府

■アナウンサーの意識の分析結果

待遇意識

☞「人間関係や場に
配慮して伝えたい」

美化意識

- ☞ ①自己演出
②事物の美化



その他

- ☞ 聞きやすさ
☞ 過剰敬語への規範意識
☞ 社会の慣用

美化語の例①

「お肉」

【中継】

■ アナ：今、**お肉**の話も少し出ましたけれど、
ご用意してますよ、ちょっとほらほら、ねえ。

■ 司会：すごいよ、これ！

■ アナ：もう、あか牛！

■ 司会：見てよ。

■ アナ：早く皆さん、戻ってきてください。
お肉、このあと、ご紹介しますよ。

■ 司会：大好きなお肉ですよ。

👤 アナ：さあ、あか牛なんですけれども、
この阿蘇の大自然とはね、
切っても切り離せない関係でして、
草原で育てられると。




で、健康な体ができているからこそ、
牧草をたくさん食べられるので
おいしい**お肉**になるのが
このあか牛なんです。

美化語の例②

「おへそ」

「おなか」

【VTR】

-  アナ： つまみ、上半身は相対的にスリムなのに、下半身は、ボリュームミー。
鈴木さんの経験上、
こういう人は、**おへそ**よりも下に脂肪がつく傾向があるといひます。
-  ゲスト：へえー、**おへそ**より下…。
-  アナ： もう一つが、**おなか**も腰回りも、全体的にボリュームがあるタイプ。

■アナウンサーの待遇意識



- (被災地からの中継で)「生産者の気持ちがかもったものを『肉』『野菜』とは言いにくい」(30代男性)
- 「女性が親しみやすいよう、『おなか』『おへそ』を使った」(30代女性)
- 「相手に対して丁寧に言うときは『お味は、どうですか』」(30代女性)
- 「誰かが作ってくれたものを試食する場合は『お料理』」(30代女性)
- 「子どもには『お家で?』と聞くほうが答えやすい」(30代男性)
- 「『お野菜・お料理』は放送だから丁寧に言おうと思って使う」(30代男性)

⇒「相手や場面への配慮」から美化語を使う

■アナウンサーの**美化意識**

①自己演出～“自分をどう見せるか”



- 「『お』『ご』を付けるほうが聞こえ方が柔らかくなり、良い印象を与える効果につながる」(30代男性)
- 「“ぶりっこ”と思われないように、野菜に『お』は付けない」
(30代女性)

②事物の美化～“ものごとをどう見せるか”



- 「『お肉』は『いい肉だ』と言うための『お』。『お野菜』も、『おいしい野菜』という意味を含ませるために言う」(30代男性)
- 「『お弁当』のほうが作り手が愛情を込めて手作りしたイメージ」
(30代女性)

■アナウンサーのその他の意識

☞聞きやすさへの配慮



- 「『酔』は聞きやすいよう絶対『お』を付ける」(30代女性)
- 「『湯』だと音声的にわかりにくい感じがする」(40代女性)
- 「『風呂』も聞き取りづらいので『お風呂』という」(30代女性)

☞過剰敬語への規範意識 ～ 「お」の付けすぎを避けたい



- 「何にでも『お』を付けている感じにならないよう気を遣う」(30代男性)
- 「『お』が多いと耳障りだとは思いますが、ゲストにつられて付けてしまうことも多い」(30代男性)

☞社会の慣用への意識



- 「伝統的に、むげに扱ってはいけないものなので『お社』」(30代男性)

**③視聴者へのグループインタビュー
～美化語はどんな印象で
受け止められているのか～**

③視聴者へのグループインタビュー調査

■調査概要

- ◇調査対象:20～60代男女(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県在住)
- ◇グループ数:6グループ(1グループ6人×6グループ、計36人)
- ◇対象者条件:グループ1【20～30代未既婚女性】
グループ2【20～30代未既婚男性】
グループ3【40～50代既婚女性】
グループ4【40～50代既婚男性】
グループ5【60代既婚女性】
グループ6【60代既婚男性】
- ◇調査日程:2017年8月3日(木)～5日(土)
- ◇調査時間:1グループあたりおよそ2.5時間

■視聴者の美化語の受け止め

待遇意識として

☞「相手や場に配慮して丁寧な言い方をしている」



視聴者

美化意識として

☞ ①アナウンサーの印象

「上品な印象」など

☞ ②事物の印象

「高級感・特別感」など

■ 美化意識としての受け止め

① アナウンサーの印象として



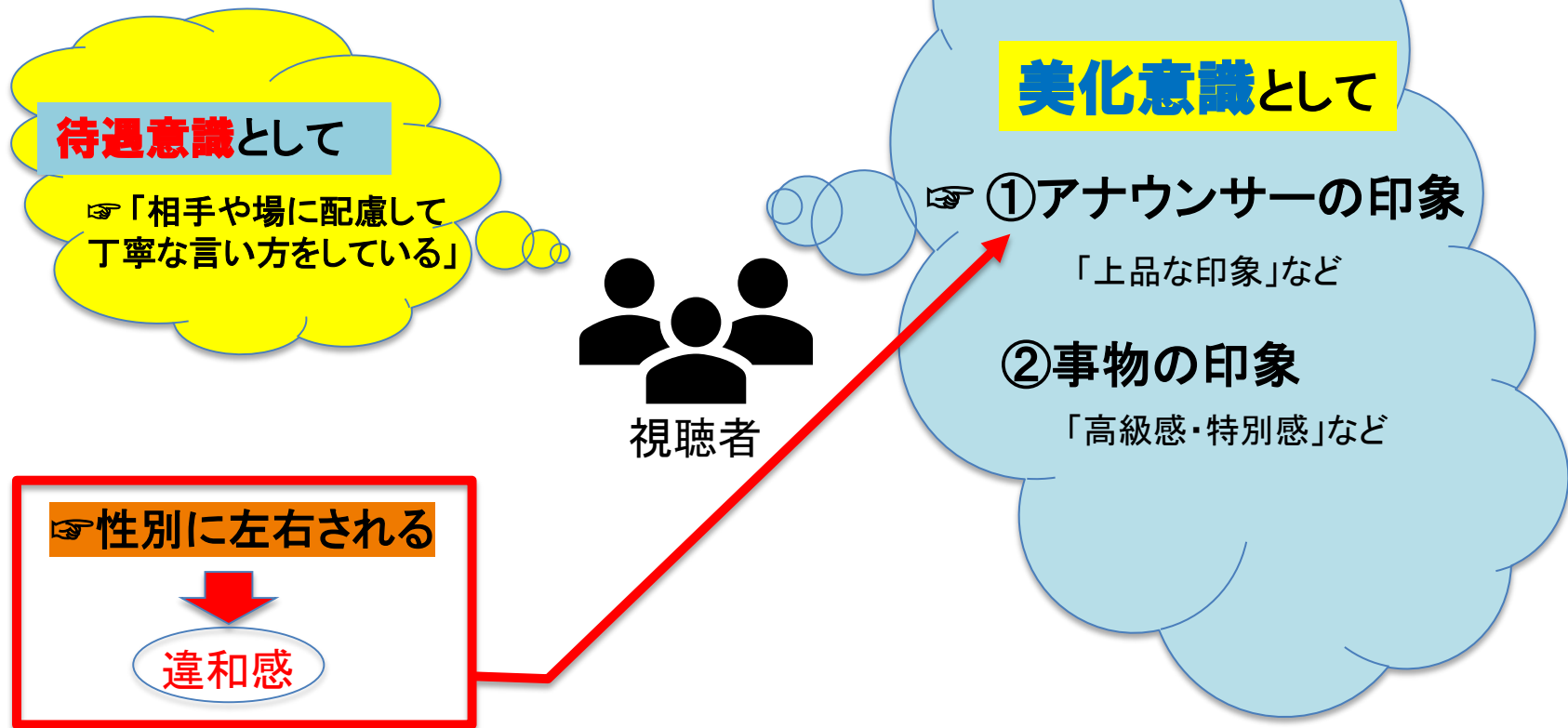
- 「『**お野菜**』は上品な感じ。『お』がつかないとちょっと下品」(60代女性)
- 「『**お花**』は、柔らかい優しそうな感じ」(50代男性)
- 「(『**お花**』は)幼い感じ」(40代女性)
- 「『**墓**』は、無礼な感じ」(40代女性)

② 事物の印象として



- 「『肉』より『**お肉**』のほうが高級感がある」(60代男性)
- 「『**お肉**』のほうがおいしそう。柔らかい雰囲気でも肉も柔らかそう」
(50代男性)
- 「『**お弁当**』はお母さんの手作り」(60代男性)
- 「『**お花**』のほうが豪華。『花』はそこら辺に生えている感じ」(20代女性)

■視聴者の美化語の受け止め



■性別による視聴者の違和感

発話者が男性の場合

◇観葉植物についての中継

⇒男性リポーターが「お花」を連続使用



視聴者の声



- 「お花を強調しすぎて女子っぽい」（20代女性）
- 「男性が『お』を付けると女性的で違和感」（50代女性）
- 「『お花』『お花』とずっと聞いていると、くどい」（40代男性）
- 「ちょっとわざとらしい。この年代が『お花』と言うと、台本を読んで言わされている感じ」（60代男性）

👉「お」の付けすぎが違和感に

■性別による視聴者の違和感

発話者が女性の場合

◇リポート「子ども向け配達弁当」

⇒女性アナウンサーが、

スタジオで「お弁当」／VTRで「弁当」を使用（←「付けすぎ回避」の意識）



視聴者の声


- 「女性アナが『弁当』と言うたびに違和感。業務的で冷たい感じ」（40代女性）
- 「女性だから、『お』を付けないと良くない。男性とは違う」（60代女性）
- 「女性が『弁当』と話すのが、ちょっと乱暴。粗野な言い方」（60代男性）
- 「『お弁当』と『弁当』が混在しているのが、しっくりこなかった」（40代女性）

👉「お」を付けないことが違和感に

美化語の例③

「お弁当」

【スタジオ】

 アナ：子どものごはんって
悩みは尽きないんですけども、

そんな悩みに応える新しいビジネスから
ご紹介したいと思います。

それが、手作りの**お弁当**を宅配する
というものなんです。
ごらんください。

【VTR】

👤 アナ：午後4時、夕食用の**弁当**が届きました。

こちらの学童保育では、
弁当箱ではなくて皿に盛りつけて
食べてもらうことにしています。

普段の食卓に近づけるというわけですね。

この**お弁当**を作っているのは、
子ども専門の配達弁当屋さんです。
学童保育のほか大手進学塾にも
この**弁当**を納めています。

■放送のことばに対する視聴者の期待

- 「テレビはいろいろな年代の人が見ているから、汚いことばや乱暴なことばじゃいけないと思う」（50代女性）
- 「(『お肉』など)アナウンサーなのだから丁寧に伝える意味で『お』を付けるべき」（40代男性）
- 「視聴者にちゃんと伝えるには、ちゃんとした敬語も必要」
(30代女性)
- 「テレビだから、人に対してのことば遣いは丁寧なほうが安心」
(50代女性)

⇒「テレビのことばは丁寧であってほしい」という期待

■調査結果

- ◆アナウンサーは番組の場面ごとに、待遇意識や美化意識、「聞きやすさ」や「使いすぎ」への配慮など、さまざまな意識から美化語を使用したり控えたりしている。
- ◆アナウンサーは「待遇意識」から美化語を使う傾向が強いが、視聴者は「美化意識」として受け止める傾向が強い。
- ◆視聴者はアナウンサーに「放送のことば」として美化語を期待する一方、話し手の性質や語によっては、「お」の付け過ぎや「お」を付けないことに違和感を持つことがあります、その意識は、話者の性別と強く結びついている。

■テレビの中の「お」のニュアンス

例① 「お悩み」

⇒番組内で多用。キーワード化。

アナウンサーの声

- 「『お悩み』は、“あさいち語”。」(30代女性)
- 「『お悩み』は、皆さんから寄せられた悩みの総称」(30代男性)
- 「『悩み』は真剣で、『お悩み』は緩い感じ。使い分けしている」(40代女性)

視聴者の声

- 「『お悩み』は軽い」(30代男性)
- 「シリアスじゃないことが『お悩み』。がん検診だから『お悩み』でもいいが、結果が末期だったら『お悩み』とは言えない」 40代女性)
- 「がん検診に『お悩み』はくだけすぎ」(60代男性)

美化語の例④

「お悩み」

【スタジオ】

司会：はい、おはようございます。

リポ：おはようございます。


司会：きょうはどんな**お悩み**ですか。

リポ：はい。きょうは、「豚のしょうが焼き」を作ったら、お肉がかたくなってしまい、あまりおいしくできませんでした。おいしく作れる方法を教えてください、という**お悩み**です。

きょうはね、ポイントを押さえながら、解決していこうと思います。

【スタジオ】

 司会：ええ、値段とかもね、確かにそうですね。

 司会：それも含めて、はい。
ということで、

きょうもFAX・メールで
皆さんから質問...

がん検診に関して、疑問、**お悩み**、

それから、経験も含めてお寄せいただければ
と思います。



■テレビの中の「お」のニュアンス

例① 「お悩み」

⇒番組内で多用。キーワード化。

 アナウンサーの声

- 「『お悩み』は、“あさいち語”。」(30代女性)
- 「『お悩み』は、皆さんから寄せられた悩みの総称」(30代男性)
- 「『悩み』は真剣で、『お悩み』は緩い感じ。使い分けしている」(40代女性)

 多用による敬意遞減
 尊敬語⇒美化語化

 視聴者の声

- 「『お悩み』は軽い」(30代男性)
- 「シリアスじゃないことが『お悩み』。がん検診だから『お悩み』でもいいが、結果が末期だったら『お悩み』とは言えない」 40代女性)
- 「がん検診に『お悩み』はくだけすぎ」(60代男性)

■テレビの中の「お」のニュアンス

例②「お地味」

⇒スタイリストの発話で使用。

面白く伝える演出。



アナウンサーの声

- 「スタイリストの女性が、『お地味』と言ったので、面白くしようとしたのだと思い、自分でも『地味』を強調するために言った」(30代女性)



視聴者の声

- 「インパクトを与えて強調させる意味合い」 (50代男性) (+)
- 「相手を傷つけないようにする優しさ」 (60代男性) (+)
- 「マイナスイメージをまるやかにする」 (30代女性) (+)
- 「すごい皮肉。言われたら、かちんとくる」 (20代女性) (-)
- 「丁寧の裏返し。バカにしている」 (40代男性) (-)

美化語の例⑤

「お地味」

【VTR】

■ スタイリスト：シャツをそのまま全部ボタンを閉めてそのまんまキレイに着ているので、どうしてもちょっと普通っぽくちょっと一歩間違うと**お地味**に見えてしまう。

■ アナ：**お・じ・み。お地味！**

■ スタイリスト：**お地味・・・。**

■ アナ：フォーマルなテイストの白シャツ。

地味にならないためには、おしゃれに着崩すのがポイントです。

■テレビの中の「お」のニュアンス

例②「お地味」

⇒スタイリストの発話で使用。

面白く伝える演出。



アナウンサーの声

- 「スタイリストの女性が、『お地味』と言ったので、面白くしようとしたのだと思い、自分でも『地味』を強調するために言った」(30代女性)

👉 皮肉や ちゃかした表現になる「お」
👉 耳慣れない語は、伝わる意味のゆれ幅が大きい



視聴者の声

- 「インパクトを与えて強調させる意味合い」 (50代男性) (+)
- 「相手を傷つけないようにする優しさ」 (60代男性) (+)
- 「マイナスイメージをまるやかにする」 (30代女性) (+)
- 「すごい皮肉。言われたら、かちんとくる」 (20代女性) (-)
- 「丁寧の裏返し。バカにしている」 (40代男性) (-)

■今後の課題

- ◇テレビの中の「お」「ご」の変化を観察し、それぞれの美化語の場面ごとの使用傾向を整理する
- ◇ジェンダーの視点からの美化語
男女差をどう乗り越えるか
- ◇名詞以外の美化語
やる／あげる、食べる／いただく